

甲 第 号

杉浦 純一 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	田中 利洋
論文審査担当者	委員	教授	細野 光治
	委員(指導教員)	准教授	渡邊 真言

主論文

Clinical Course of Optical Coherence Tomography-Detected Lipid-rich Coronary Plaque after Optimal Medical Therapy

OCT で検出された冠動脈の lipid-rich プラークに対する至適薬物療法施行後の臨床経過

Circulation Reports 2021 Dec 3;4(1):29-37.

Junichi Sugiura, Tsunenari Soeda, Atsushi Kyodo, Takuya Nakamura,

Akihiko Okamura, Kazutaka Nogi, Yoshihiko Hashimoto, Tomoya Ueda,

Makoto Watanabe, Yoshihiko Saito.

## 論文審査の要旨

光干渉断層法(OCT)は lipid-rich coronary plaque(LRCP)が検出できる有用な検査方法であるが、近年、OCTは冠動脈インターベンション時にのみ施行し、術後は冠動脈CTでフォローすることが多くなっている。本研究では、ベースラインのOCTとフォローの冠動脈CTの所見の関係を探索的に解析した。解析の結果、10か月間至適薬物療法を行った後のフォローの冠動脈CTでHigh risk plaque featureを3つ以上認めるHigh risk LRCPを予測するベースラインのOCT所見は、脂質角度の大きいLRCPでそのカットオフ値が $154^{\circ}$ であることを示した。本研究は、LRCPを有する患者の適切な脂質低下療法を考えるうえで重要な研究である。今後、臨床では益々PCI後のフォローが冠動脈CT主体になっていくという点からも意義の大きい研究であるといえる。公聴会では、High risk LRCP群での脂質管理の状況について質問し、心血管イベントを発症した症例の中には経過中に脂質管理が不十分な症例も存在したと回答され、High risk LRCP群では特に注意深く脂質管理を行うことの重要性を強調された。また、OCTでどのようにしてLRCPを検出したらよいかという質問に対しては、OCTガイドでPCIを実施した際には責任病変だけでなく責任血管全体をできるだけ詳細に観察することが重要であると回答された。また、PCI後の至適な冠動脈CT施行時期については、今後の検討課題であると回答された。

研究の独創性と、臨床への応用の可能性、今後の研究への発展性から、学位論文として適当と判断した。

## 参 考 論 文

1. Catheter ablation of ganglionated plexi in patients with adenosine triphosphate-induced atrial fibrillation after pulmonary vein isolation  
Heart Vessels. 2022 May;37(5):854-866.  
Taku Nishida, Akihiro Takitsume, Junichi Sugiura, Ayaka Keshi,  
Koshiro Kanaoka, Kaeko Hirai, Hiroki Yano, Yukihiro Hashimoto,  
Tomoya Ueda, Hitoshi Nakagawa, Kenji Onoue, Tsunenari Soeda,  
Makoto Watanabe, Rika Kawakami, Yoshihiko Saito.
2. Progression of a Calcified Nodule Causing Acute Myocardial Infarction in a Patient on Hemodialysis - Serial Optical Coherence Tomography  
Circulation Journal 2019 Jan 25;83(2):490.  
Junichi Sugiura, Makoto Watanabe, Nozomi Toyokawa, Daisuke Kamon,  
Takuya Isojima, Tomoya Ueda, Tsunenari Soeda, Hiroyuki Okura,  
Yoshihiko Saito.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに循環器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和5年3月7日

学位審査委員長

画像診断・低侵襲治療学

教授 田中 利洋

学位審査委員

循環・呼吸機能制御医学

教授 細野 光治

学位審査委員(指導教員)

循環器病態制御医学

准教授 渡邊 真言